

令和7年2月3日

大阪府立柴島高等学校 第3回 学校運営協議会 議事録

1 会議日時 令和7年2月3日（月） 15:00～16:30

2 開催場所 大阪府立柴島高等学校 校長室

3 委員

	名前	資格	所属	出欠
会長	森田 英嗣	学識経験者	大阪教育大学 教授	○
副会長	山本 了照	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長	○
委員	表西 貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会 評議員	○
委員	三木 幸美	学校運営に資する活動を行う者	とよなか国際交流協会 事業主任	○
委員	坂本 浩子	その他の関係者	大阪府立柴島高等学校後援会 会計	×
委員	坂元 直美	保護者	大阪府立柴島高等学校PTA 会長	○

4 事務局（学校側）

小畑 龍業（教頭） 三輪 真嗣（首席） 内田 清彦（首席） 中川 智子（人権教育主担）  
時安 希未子（人権教育副主担） 堀 博俊（事務長） 森田 正良（校長）

5 次第

○会長あいさつ

○校長あいさつ

○協議案件

- ・ R 6 年度各校務分掌及び学年の年間総括について
- ・ R 6 年度人権教育推進にかかわる年間総括案について
- ・ R 6 年度学校教育自己診断の結果について
- ・ R 6 年度学校評価案について
- ・ R 7 年度学校経営計画案について
- ・ その他

6 協議の概要

○ R 6 年度各校務分掌及び学年の年間総括について（事務局）

<総務・教務・生活指導・集団育成・進路指導・保健・自立支援・各学年の順にポイントを説明>

- ・ 様々な取組に関し、わかりやすいマニュアルを作成している。誰が担当してもやっていけるようになっている。
- ・ 「RAKUME」（メルマガ配信）による連絡が浸透し、スマート化してきた。

- ・オープンスクールの成果が表れており、本校を志望する中学生が多数となっている。
- ・PTAはととてもよく学校を応援してくれている。
- ・PCシステムの変更等もあり、ICT関係の業務負担が大きい。体制の工夫等が必要。引き続き、業務の軽減や簡略化、知識の共有化を図りたい。
- ・生活指導に関しては、あいさつの励行に継続して取り組んでいる。頭髪指導については、統一した指導の定着をめざしてきた。懲戒件数は少ないが、人間関係のトラブルが多発し、複雑化している。
- ・「スタディサプリ」についてはまだまだ活用しきれていない部分もあるが、3年の「進路HR」が充実し、配慮の必要な生徒への支援もきめ細かく行われている。3年間体系立てた進路指導を進めていきたい。
- ・健康管理については、保護者への協力依頼で受診率が向上している。安全教育については、大学の先生を招聘して傷病者への対応や心肺蘇生法などの研修を実施し、知識・技術の習得に努めている。校内設備については、破損している箇所もあり、改善を図っていきたい。
- ・体育祭や文化祭については、生徒の肯定感が強かった。生徒に議論させる流れをつくったため、自分たちの思うようにできたという意識があったからではないかと考える。ただし、身なりについては教員から異論もあり、調整が必要。
- ・校則について来年度から生徒会として申入れができるようにする。生徒が主体的に学校運営に関わるようにしていきたい。
- ・部活動においては、部内の人間関係の困難さが顕著になっている。
- ・自立支援コースについては、個々の生徒の課題と向き合いつつ、その他の生徒が様々な活動の中で「ともに学び、ともに育つ」ことの良さを見せてくれた。周囲の生徒がアミティエ生をサポートすることで、周囲の生徒も成長できた。授業や施設活用でも成果が表れている。また、丁寧な取組や支援の結果、アミティエの3年生（3名）の進路も実現することができた。
- ・1年生は、人権学習など様々な場面で主体的に活躍する生徒が多く見られた。学年としては、「気になる生徒の支援プロジェクト」を立ち上げ、配慮が必要な生徒の情報を共有して、組織的に支援する体制をつくるとともに、リーダーの育成にも力を入れてきた。継続して取組み、今後の学校行事や進路実現に繋げたい。自立支援コースとの連携も進めることができた。
- ・2年生は、比較的落ち着いて勉強しているが、自分たちの力で人間関係を調整する力が弱い。学年として、生徒情報の共有はできている。リーダーの育成に努めたい。
- ・3年生は、ここまでの成長が著しく、主体的に学校生活を送ることができている。学年として、生活指導や個々の支援に関しては丁寧に取組んできたが、コロナ禍で1年次にHR合宿へ行けなかった学年でもあり、集団づくりの面では課題を残したところもあった。あらためて、早期からの集団づくりの取組みが重要であると感じる。

○R6年度人権教育推進にかかわる年間総括案について（事務局）

- ・例年どおり取組むことができた。教員の意識も概ね同じ方向を向いている。
- ・夏に行った成山治彦先生の講演は素晴らしい内容だった。
- ・いじめ対応が増えており、スクールロイヤーを招いての職員研修を実施した。
- ・SSWの活用が定着し、各学年で生徒の支援を進めることができた。支援委員会も有効に機能している。

○R6年度学校教育自己診断の結果について（校長）

- ・12月に実施した学校教育自己診断の結果に基づいて分析したもの。経年変化を追うため、質問内容は例年と同様。
- ・今回は、全ての間で生徒の回答の肯定率が上昇しており、ポイントの伸びも大きかった。本校の教育活動の大きな成果であると考えられる。保護者については、生徒に比べると、増減の幅は小さいという結果であった。教職員については、上昇しているものと低下しているものが混在し、生徒との間で意識や実感に乖離があるとも考えられる。
- ・この結果を客観的に捉え、今後の取組に還元させることで、さらなる改善に努めていきたい。

#### ○R6年度学校評価案について（校長）

- ・評価指標を自己診断における生徒の回答の肯定率に置いているため、学校評価としても高くなっている。

#### ○R7年度学校経営計画案について（校長）

- ・現在、府教育庁と協議に入っているところ。「めざす学校像」や「中期的目標」については、スクールミッションやスクールポリシーとの整合性もあり、大きな変更はない。
- ・「次年度の取組内容」については、生徒の集団のあり方が大きく変化している状況を踏まえ、「様々な課題を抱える生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、学級集団づくりの取組みを再点検し、成果と課題を共有しながら、さらなる深化を図る」という項目を書き加えている。また、教育庁からの指示もあり、「働き方改革」について修正している。ご確認いただきたい。

#### 【質疑応答】

委員) SNSの問題はたくさんあると思う。中学校でも女子が性被害にあっており、その中には支援の必要な生徒や自分で判断できない生徒もいる。大人に騙されないよう、学校として組織的に取組むことが大切だ。

委員) いじめについて、被害生徒が安心して学校生活を送るために、どのように取組んでいるのか？

事務局) 加害生徒への指導とともに、被害生徒が安心できるための環境づくり、周囲の生徒への働きかけ、必要に応じて別室登校や学習保障などの体制整備などを行っている。

委員) 学校教育自己診断にもいじめの項目があったので、記述欄を設けてはどうか。

委員) 50周年の取組は素晴らしかった。あれを経験した生徒は学校を誇りに思えるだろう。学校教育自己診断のポイントアップはそれもあったのではないか。

委員) ICTなどハードの部分や学校の老朽化など安全面で不具合があれば、地域としても改善要求を申入れるなど、できることを取組みたい。

委員) 生徒会が機能するためには、やはり集団づくりが大切だ。その上で、生徒自治できるかどうか次のステップになる。

委員) 校則についての生徒の意識はどのようなものか？

事務局) 例えば、文化祭では、異装に関してメリハリをつけさせた。身だしなみについてもっと自由にしたいという声もあるが、全ての生徒がそう思っているわけではない。一部の生徒にある自由のはき違えに対しては、教職員の中でも議論していかなければならないと感じている。

委員) 保護者の立場として、感謝している。メルマガなどはとてもありがたい。健康診断の事後連絡などもよかった。人間関係やSNSなどのトラブルは非常に難しい問題だとあらためて思った。

会長) 学校教育自己診断で生徒の評価が高いのは素晴らしいこと。中学生の志願動向も好調だ。どの

ように捉えているのか？

校長) これが直結する原因だという端的な根拠はお示しできないが、様々な取組の成果だと考えている。生徒が学校を誇りに思ってくれているなら、嬉しいことである。志願動向については、地の利に恵まれていることが大きい。加えて、HPやパンフレットも評価が高く、生徒が前面に出た広報活動も好評である。

事務局) 校則が影響している面もあるだろう。

委員) 逆の意味で、私学に流れることもある。

会長) 校内で作成しているマニュアルについてももう少し聞きたい。

事務局) 担当が誰になってもできるものをめざしている。マイナーチェンジしやすいように、課題の所在や修正箇所を明確にしている。よりスマートなものにしていきたい。

会長) SNSが大きく関与してくる時代にあって、学校ではどのような状況か？

事務局) 例えば、3年生で端末回収後に授業を行ったが、仕方なく個人のスマートフォンを使わせたところ、掌握が効かなくなった。オーストラリアのように法令で規制しないとどうしようもない。

委員) たしかに、どう対応していいのかわからない実態がある。

会長) 人間関係の課題について、コロナ禍で宿泊学習ができなかったことの影響は？

事務局) 違いを尊重するという意識づけが十分できなかったと思われる。

会長) 成山治彦先生の講演について、教員の反応はどのようなものだったのか？

事務局) 本校での経験の少ない教員からは、創立以来の取組の経緯や大切にしてきたことがよく理解できたという意見が多かった。それが今に繋がっていることを確認するいい機会になった。

会長) 万博は利用するのか？

校長) 学校としての利用は考えていない。

会長) 授業で活用したりはしないのか？

委員) そのようなことができるところでもないと思うが…。

事務局) 実際、そういう授業は難しいと思う。

委員) 高校でテレワークはどんな状況なのか伺いたい。中学校ではいろいろと問題が多いのだが。

校長) 手続きが面倒なので、今のところ、やる人はいない。

委員) 中学校では部活動の地域移行が進みつつあるが、高校ではどうなのか？

校長) 地域移行の話はまだ出ていない。府立高校では今年度から「大阪モデル」(合同部活動)がスタートしたが、課題も多いと感じている。

委員) 府学教審答申に入試制度改革が挙げられていたが、子どもや保護者にしっかり伝わるようにしていくべきだ。

校長) 具体的なことはこれから。学校運営協議会でもご意見を賜りたい。

委員) 使えるところはどんどん使ってほしい。また、街づくり、企業連携、地域連携など、学校と問題意識を共有しながら、やっていきたい。

#### ○1年間をふりかえって

委員) 今年度末で任期満了を迎える。今後は遠くから柴島高校の発展を見守っていきたい。

委員) 今年から学校運営協議会の委員として参加させていただいた。卒業生という立場でもあり、来年度も貢献できればと思う。

委員) 地域と学校が共に学びながら、引き続き取組を進めていけたらと思う。

委員) 2年間、学校運営協議会に参加させてもらった。PTA会長としても、柴島高校は先生方が協力的なので、とてもありがたかった。

会長) 創立50周年迎え、さらに次に向けてという、柴島高校にとって大切な一年だったと感じている。

府民からの期待が大きい学校なので、これからも筋を通しながら、戦略的に頑張っていたきたい。